

**門真市内 市民団体の
活動実態、協働への取り組み調査
報告書**

平成 21 年3月

門 真 市

目次

1. 調査の目的	1
2. 調査の方法と実施時期	1
3. 調査対象市民団体と回答団体数	1
4. 調査内容	1
5. 回答結果の概要	2
6. 市民活動団体の回答からみた市民団体の活動の促進に向けた課題	4

1. 調査の目的

「門真市第5次総合計画」の策定にあたっては、市民、企業、団体の意見を踏まえ、それらの意見内容を計画に反映していくこととしている。

こうしたことから門真市第5次総合計画の策定に向けて、市民団体の活動の促進に向けた施策検討の参考とするため、本市内で活動する市民団体の活動上の課題等について把握することを目的とする。

2. 調査の方法と実施時期

- ・ヒアリングシートの郵送発送及び郵送回収により、各市民団体の考え方を調査
- ・平成21年3月初旬～中旬

3. 調査対象市民団体と回答団体数

市内で活動する28市民団体を対象に実施し、19団体から回答を得た。

4. 調査内容

1. 貴団体の活動内容などについておたずねします。
 - 1-1. 貴団体の設立経緯や活動の目的などについてお聞かせください。
 - ① 設立時期…（ ）年に設立
 - ② 活動の目的
 - ③ 現在、取り組まれている活動の概要
 - 1-2. 貴団体の所属会員数などについてお聞かせください。現在の概ねの人数で結構です。貴団体に所属し、活動をされている人数…（ ）人
 - 1-3. 貴団体が行政といっしょに取り組んでいる、あるいは協力して取り組んでいる活動があれば、活動の概要や協力内容、取り組みに際する課題などをお聞かせ下さい。
 - 1-4. 貴団体の活動上の問題や課題などについてお聞かせ下さい。
 - 1-5. 貴団体と市内の他の市民活動団体との交流があれば、どのような交流をされているか、その概要についてお聞かせ下さい。
2. 今後の活動への抱負や協働の取り組みなどについておたずねします。
 - 2-1. 貴団体の今後の活動に向けた抱負をお聞かせください。
 - 2-2. 今、各地で行政と市民の協働の取り組みが進められていますが、貴団体では行政との協働の取り組みについて、どのように考えておられるかお聞かせください。
 - 2-3. 今後の本市のまちづくりに向け、貴団体で行政と協働で取り組むことができる活動や協働で取り組みたい活動などがあれば、どのような活動か、その概要をお聞かせください。

- ① 行政と協働で取り組むことができる活動
 - ② 行政と協働で取り組みたい活動
3. 今後、本市で行政と市民の協働によるまちづくりを推進していくために必要なしくみや環境、本市のまちづくりに望むことなど、何でも結構ですので、ご意見がございましたら、自由にご記入ください。

5. 回答結果の概要

(1) 設立時期

- ・最も早く設立された団体が昭和 29 年に、最近では平成 20 年に設立されている。回答があった団体のうち、特定非営利活動法人は 3 団体であった。

(2) 活動目的

- ・概ね次のような目的に分類される。
 - ◇福祉系…5 団体 ◇教育・文化系…4 団体 ◇子ども・青少年育成系…4 団体
 - ◇その他…6 団体

(3) 会員数（賛助会員などを除いた活動会員数）

- ・団体の会員数規模は、5 名～数百人規模までである。
 - ◇30 人未満…5 団体 ◇31～100 人…5 団体 ◇101～300 人…5 団体
 - ◇301 人以上…4 団体

(4) 行政との協働状況

- ・回答があった団体の大半が、何らかの形で行政との協力関係がある。一部の団体では、行政から仕事の委託を受けて、事業を実施している団体もある。
 - ◇行政と協力関係にある…12 団体
 - ◇行政からの仕事を受託している…2 団体
 - ◇特に、行政とはいっしょに取り組んでいない…2 団体
 - ◇無回答…3 団体

(5) 活動上の問題点

- ・団体の主要な活動上の課題としては、会員の減少や新たな会員の確保、活動資金の確保などをあげる団体が多い。
 - ◇市民の理解がほしい（3 件） ◇確実な活動体制の形成（1 件）
 - ◇活動資金の確保が難しい（4 件） ◇会員数が減少している（4 件）
 - * 野外での活動に際する保険金の確保等
 - ◇会員の高齢化が進んでいる（3 件） ◇会員・人材の確保が難しい（5 件）
 - ◇会員の活動力がない（2 件） ◇活動の場所の確保が難しい（1 件）
 - ◇行政の対応が充実していない（1 件） ◇他団体との交流がない（2 件）
 - ◇特に問題はない（1 件）

(6) 他の市民団体との交流状況

- ・交流イベントなどでの他団体との交流をしている団体は多いが、積極的に他団体と情報交換や連携など交流をしている団体は少ない。

◇交流イベントなどに参加し、交流している（7件）

◇関係団体や上部団体と交流している（1件）

◇活発ではないが交流している（1件）

◇ほとんど交流していない（4件）

◇不明（6件）

(7) 今後の行政との協働の取り組み方への考え方

- ・回答が無い団体も多いが、回答があったいずれの団体も行政との協力関係（協働）が未だ十分にできていない旨の回答が多い。

◇協力していきたい（1件）

◇もっと協力関係ができるようにしてほしい（2件）

◇公益活動支援センター等を通じて協力関係を結びたい（1件）

◇協力したいが人材不足（1件）

◇協働で行政が後退しないように（1件）

◇自治会との協力関係が重要である（1件）

◇協働の意味がわからない（1件）

◇共催で行政と協働したい（1件）

◇不明（9件）

(8) 具体的に協働が可能な取り組みについて

- ・イベントでの協力や講習会、研修会、各種教室等の実施、講師派遣などがそれぞれの団体の特性を活かした取り組みが協働していく具体的な取り組み内容として提案されている。

◇市民が日常できること（1件）

◇行政と知恵を出し合うこと（2件）

◇講習会や研修会、各種教室等の実施、講師派遣等（3件）

◇小学校での手話等の手伝いや支援（2件）

◇各種イベント実施への協力（4件）

◇人材確保（2件）

6. 市民活動団体の回答からみた市民団体の活動の促進に向けた課題

市民活動団体の回答からみた市民団体の活動の促進に向けた課題を整理すると次のようになる。

- ① 古くに設立され活動期間が長い組織については、会員の高齢化や新たな会員の確保が困難な状況がうかがえる。
- ② ボランティアを中心とした自主事業型の活動組織では、会員の減少や新たな会員の確保、活動運営資金の確保などが主要な課題となっており、ボランティアの掘り起こしや運営面での安定性の確保が求められている。
- ③ 団体間の交流面では、交流イベントや上部団体との交流や情報交換はうかがえるが、市内の市民団体、活動団体との積極的な交流はうかがえない。
- ④ 行政との協働を望む声や市民団体そのものの活動能力面で協働体制が難しいとする団体もあるが、全体的には、未だ、協働そのものが市民団体に浸透していないと想定される。

これらの課題を踏まえると、市民団体にとって協働がどのような意義を有するのか、協働の考え方について市民団体と共有していくことから、協働の促進を始めていく必要がある。

協働の現状は、市行政内においても協働が浸透していないとともに、市民、市行政ともに、協働を実現させる方法、手続きも明確になっていないのが現状である。

そのためには、平成 20 年度に策定された「門真市市民公益活動支援・協働指針」にもとづき、市行政が協働促進の先導役を果たし、次のような取り組みを進めながら、市民や市民団体に「協働」を浸透させていくことが必要である。

- ① 市民の市政に対する関心を高め、ボランティアを掘り起こしていく。
- ② 市民の市政に対する関心を高めるための市政の情報発信を充実していく。
- ③ ボランティアの掘り起こしからボランティアそのものや市民活動団体を育てていく。
- ④ 市民活動団体に育てていくための運営面の支援を充実していく。

など多様な取り組みが必要である。

いずれも、まず、市行政が先導していく必要がある、それぞれの事務事業について、協働の視点から実施の可能性を再点検し、本市の協働パートナーの育成から始めていくことが必要である。